



平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年1月30日

上場会社名 富山化学工業株式会社 上場取引所 東証一部
 コード番号 4518 URL <http://www.toyama-chemical.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役 代表執行役社長 (氏名) 菅田 益司
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役 経営戦略部門長 (氏名) 水野 淳一 TEL (03) 5381-3818
 兼経営企画部長

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績 (平成19年4月1日～平成19年12月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期)純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
20年3月期第3四半期	20,227 55.0	2,118 -	1,943 -	2,290 -
19年3月期第3四半期	13,047 10.5	△3,868 -	△4,608 -	△4,358 -
19年3月期	16,732	△5,797	△6,557	△8,765

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第3四半期	11 69	11 68
19年3月期第3四半期	△22 21	-
19年3月期	△44 68	-

(注) 平成19年3月期第3四半期及び平成19年3月期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、四半期(当期)純損失が計上されたため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第3四半期	63,838	26,125	40.8	133 39
19年3月期第3四半期	65,071	28,512	43.8	145 42
19年3月期	61,702	23,962	38.8	122 25

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	106	355	△186	8,274
19年3月期第3四半期	2,328	△1,873	191	9,260
19年3月期	593	△1,725	633	8,116

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金	
	第3四半期末	
	円	銭
20年3月期第3四半期		—
19年3月期第3四半期		—

3. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】

通期の業績予想につきましては、当第3四半期における業績が概ね計画どおりに推移しており、現時点では平成19年11月7日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有
 (注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. その他 をご覧ください。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る、本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等につきましては、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 1. 連結経営成績に関する定性的情報 をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期の売上高は202億27百万円となりました。

医療用医薬品の売上高は、抗リウマチ剤「T-5224 (AP-1阻害剤)」に関するロシュ社からのライセンス契約締結に伴う一時金及びニュータイプの経口用キノロン系抗菌製剤「ジェニナック (一般名:ガレノキサシン)」に関するアステラス製薬株式会社からの国内承認取得に伴う一時金、並びに「ジェニナック」の売上が寄与したことなどから、前年第3四半期に比べ増加しております。

大正富山医薬品株式会社は、「情報提供力の強化」及び「重点化と集中化」を基本とした医療機関への頻回訪問に取り組んでおります。その結果、大正富山医薬品株式会社への医療用医薬品の売上高は、経口用セフェム系抗生物質製剤「トミロン」の売上は減少したものの、注射用ペニシリン系抗生物質製剤「ペントシリン」、β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤「タゾシン」及び経口用ニューキノロン系抗菌製剤「オゼックス」は売上を拡大、注射用ニューキノロン系抗菌製剤「パシル」及びループ利尿剤「ルプラック」は前年第3四半期とほぼ同様の売上を維持いたしました。

費用面については、研究開発費は増加したものの、販売費及び一般管理費の削減に努めました。

その結果、当第3四半期は営業利益21億18百万円、経常利益19億43百万円、四半期純利益22億90百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

① 資産の部

当第3四半期末の総資産は638億38百万円（前連結会計年度末617億2百万円）であり、前連結会計年度末に比べ21億35百万円の増加となりました。主として、「ジェニナック」の10月5日発売に伴い、売掛金が21億69百万円増加したこと等によるものです。

② 負債の部

当第3四半期末の負債合計は377億12百万円（前連結会計年度末377億40百万円）であり、前連結会計年度末に比べ27百万円の減少となりました。主な内容は、流動負債のその他に含めて表示しております未成工事受入金の増加13億10百万円、固定負債のその他に含めて表示しております転籍者退職金等の長期未払金が4億92百万円減少し、また同じくその他に表示しております市場性ある有価証券の時価評価に伴う繰延税金負債の減少4億77百万円等であります。

③ 純資産の部

当第3四半期末の純資産は261億25百万円（前連結会計年度末239億62百万円）であり、前連結会計年度末に比べ21億63百万円の増加となりました。主として、利益剰余金が22億89百万円増加したことによるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は82億74百万円（前連結会計年度末81億16百万円）であり、1億57百万円の増加となりました。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、1億6百万円の収入となりました。主として、税金等調整前四半期純利益は23億6百万円でありましたが、「ジェニナック」発売に伴う売上債権の増加が25億55百万円あったことによります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、3億55百万円の収入となりました。主として、有価証券の売却による収入9億97百万円、投資有価証券の売却による収入1億0百万円及び有形固定資産の取得による支出4億78百万円によるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億86百万円の支出となりました。社債の償還による支出50百万円、自己株式の取得による支出1億52百万円及び同売却による収入16百万円によるものです。

3. その他

(1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

税金費用及び税効果会計については、法定実効税率をベースとした年間予測税率を用いて計算しております。

(2) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

法人税法の改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより売上総利益及び差引売上総利益はそれぞれ5百万円減少し、営業利益は13百万円減少、経常利益、税金等調整前四半期純利益及び四半期純利益は、それぞれ14百万円減少しております。

4. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)	当 四 半 期 末 (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減		(参 考) 前 期 末 (平成19年3月期末)
	金 額	金 額	金 額	増 減 率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び預金	3,209	4,717	1,508	47.0	4,562
2. 受取手形及び売掛金	4,480	6,279	1,799	40.2	3,724
3. 有価証券	8,408	4,216	△4,192	△49.9	4,713
4. たな卸資産	9,342	10,591	1,249	13.4	9,619
5. その他	2,424	2,210	△214	△8.9	2,582
貸倒引当金	△8	△10	△1	—	△6
流動資産合計	27,856	28,005	149	0.5	25,197
II 固定資産					
1. 有形固定資産	23,462	22,904	△558	△2.4	23,317
(1) 建物	7,659	7,382	△276	△3.6	7,537
(2) 機械及び装置	1,568	1,482	△85	△5.5	1,625
(3) 土地	12,644	12,665	21	0.2	12,644
(4) その他	1,590	1,372	△217	△13.7	1,509
2. 無形固定資産	245	156	△89	△36.4	188
3. 投資その他の資産	13,507	12,772	△734	△5.4	12,999
(1) 投資有価証券	7,680	7,295	△385	△5.0	7,597
(2) 繰延税金資産	172	2	△170	△98.6	2
(3) その他	5,758	5,581	△177	△3.1	5,866
貸倒引当金	△105	△106	△1	—	△104
投資損失引当金	—	—	—	—	△362
固定資産合計	37,215	35,832	△1,382	△3.7	36,505
資産合計	65,071	63,838	△1,233	△1.9	61,702

科 目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)	当 四 半 期 末 (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減		(参 考) 前 期 末 (平成19年3月期末)
	金 額	金 額	金 額	増 減 率	金 額
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 支払手形及び買掛金	4,459	4,096	△363	△8.2	3,848
2. 短期借入金	—	5,359	5,359	—	33
3. 一年以内償還予定の社債	50	—	△50	△100.0	50
4. 未払法人税等	40	77	36	90.5	62
5. 賞与引当金	96	87	△8	△8.8	247
6. 返品調整引当金	2	6	4	220.0	1
7. その他	2,158	3,111	952	44.1	1,823
流動負債合計	6,807	12,737	5,930	87.1	6,067
II 固定負債					
1. 長期借入金	16,600	11,741	△4,859	△29.3	17,066
2. 再評価に係る繰延税金負債	2,427	2,427	△0	△0.0	2,427
3. 退職給付引当金	7,785	7,431	△353	△4.5	7,814
4. 役員退職慰労引当金	2	5	2	100.0	3
5. その他	2,936	3,369	433	14.7	4,361
固定負債合計	29,752	24,974	△4,777	△16.1	31,672
負債合計	36,559	37,712	1,153	3.2	37,740
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金	22,400	22,400	—	—	22,400
2. 資本剰余金	21,535	21,533	△1	△0.0	21,537
3. 利益剰余金	△15,186	△17,303	△2,117	—	△19,593
4. 自己株式	△611	△794	△183	—	△670
株主資本合計	28,137	25,835	△2,302	△8.2	23,673
II 評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金	2,039	1,899	△140	△6.9	1,947
2. 繰延ヘッジ損益	△67	△58	9	—	△76
3. 土地再評価差額金	△1,621	△1,621	△0	—	△1,621
評価・換算差額等合計	350	219	△131	△37.5	249
III 新株予約権	24	71	46	189.8	39
純資産合計	28,512	26,125	△2,386	△8.4	23,962
負債純資産合計	65,071	63,838	△1,233	△1.9	61,702

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位:百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	当 四 半 期 (平成20年3月期 第3四半期)	増 減		(参 考) 前 期 (平成19年3月期)
	金 額	金 額	金 額	増 減 率	金 額
I 売上高	13,047	20,227	7,180	55.0	16,732
II 売上原価	8,581	9,224	643	7.5	11,353
売上総利益	4,465	11,002	6,537	146.4	5,378
返品調整引当金繰入額	—	4	4	—	—
返品調整引当金戻入額	1	—	△1	△100.0	2
差引売上総利益	4,467	10,998	6,530	146.2	5,380
III 販売費及び一般管理費	8,336	8,879	543	6.5	11,178
営業利益又は損失(△)	△3,868	2,118	5,987	—	△5,797
IV 営業外収益	168	533	364	216.2	236
1. 受取利息	40	43	3	8.7	53
2. 受取配当金	32	41	8	25.3	59
3. 受取保険金	21	—	△21	△100.0	21
4. 持分法による投資利益	—	320	320	—	—
5. その他	74	128	53	71.7	101
V 営業外費用	908	708	△199	△22.0	995
1. 支払利息	307	311	3	1.1	407
2. たな卸資産評価損	121	124	3	2.6	46
3. 持分法による投資損失	285	—	△285	△100.0	313
4. 為替差損	9	131	122	—	10
5. その他	184	141	△43	△23.3	216
経常利益又は損失(△)	△4,608	1,943	6,552	—	△6,557
VI 特別利益	6	362	355	—	9
1. 貸倒引当金戻入額	6	—	△6	△100.0	9
2. 投資損失引当金戻入額	—	362	362	—	—
VII 特別損失	—	—	—	—	362
1. 投資損失引当金繰入額	—	—	—	—	362
税金等調整前四半期純利益又は 四半期(当期)純損失(△)	△4,601	2,306	6,908	—	△6,910
法人税、住民税及び事業税	10	16	5	58.3	12
法人税等調整額	△253	△0	253	—	1,842
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失(△)	△4,358	2,290	6,648	—	△8,765

(3) (要約) 四半期連結株主資本等変動計算書

前第3四半期連結会計期間(平成18年4月1日～平成18年12月31日)

(単位:百万円)

	株 主 資 本					評価・換 算差額等	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自己株式	株主資本 合 計			
平成18年3月31日 残高	22,400	21,536	△10,828	△390	32,718	710	—	33,428
第3四半期中の変動額								
四半期純損失			△4,358		△4,358			△4,358
自己株式の取得				△234	△234			△234
自己株式の処分		△0		12	12			12
株主資本以外の項目の 第3四半期中の変動額 (純額)						△359	24	△335
第3四半期中の変動額合計	—	△0	△4,358	△221	△4,580	△359	24	△4,915
平成18年12月31日 残高	22,400	21,535	△15,186	△611	28,137	350	24	28,512

当第3四半期連結会計期間(平成19年4月1日～平成19年12月31日)

(単位:百万円)

	株 主 資 本					評価・換 算差額等	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自己株式	株主資本 合 計			
平成19年3月31日 残高	22,400	21,537	△19,593	△670	23,673	249	39	23,962
第3四半期中の変動額								
四半期純利益			2,290		2,290			2,290
自己株式の取得				△152	△152			△152
自己株式の処分		△3	△1	28	23			23
土地再評価差額金の 取崩			0		0			0
株主資本以外の項目の 第3四半期中の変動額 (純額)						△30	32	1
第3四半期中の変動額合計	—	△3	2,289	△124	2,162	△30	32	2,163
平成19年12月31日 残高	22,400	21,533	△17,303	△794	25,835	219	71	26,125

前連結会計年度(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	株 主 資 本					評価・換 算差額等	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自己株式	株主資本 合 計			
平成18年3月31日 残高	22,400	21,536	△10,828	△390	32,718	710	—	33,428
連結会計年度中の変動額								
当期純損失			△8,765		△8,765			△8,765
自己株式の取得				△297	△297			△297
自己株式の処分		0		17	17			17
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額 (純額)						△460	39	△421
連結会計年度中の変動額合計	—	0	△8,765	△280	△9,044	△460	39	△9,466
平成19年3月31日 残高	22,400	21,537	△19,593	△670	23,673	249	39	23,962

(4) (要約) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	当 四 半 期 (平成20年3月期 第3四半期)	(参 考) 前 期 (平成19年3月期)
	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前四半期純利益又は 四半期(当期)純損失(△)	△4,601	2,306	△6,910
2. 減価償却費	963	1,128	1,338
3. 長期前払費用償却額	6	8	9
4. 貸倒引当金の増減額(減少:△)	△7	6	△10
5. 投資損失引当金の増減額(減少:△)	—	△362	362
6. 賞与引当金の増減額(減少:△)	△150	△159	0
7. 退職給付引当金の増減額(減少:△)	△72	△332	△29
8. 役員退職慰労引当金の増減額(減少:△)	△4	2	△4
9. 受取利息及び受取配当金	△73	△84	△113
10. 支払利息	307	311	407
11. 為替差損	2	118	2
12. 持分法による投資損益(利益:△)	285	△320	313
13. 売上債権の増減額(増加:△)	6,483	△2,555	7,239
14. たな卸資産の増減額(増加:△)	△1,087	△972	△1,364
15. 仕入債務の増減額(減少:△)	954	94	504
16. その他	△465	1,111	△859
小計	2,540	299	886
17. 利息及び配当金の受取額	70	86	110
18. 利息の支払額	△264	△269	△386
19. 法人税等の支払額	△18	△19	△17
20. 法人税等の還付額	—	9	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,328	106	593
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 有価証券の取得による支出	△2,794	—	△2,894
2. 有価証券の売却による収入	1,998	997	3,296
3. 有形固定資産の取得による支出	△1,094	△478	△1,928
4. 有形固定資産の売却による収入	0	3	0
5. 投資有価証券の取得による支出	△1	△7	△101
6. 投資有価証券の売却による収入	202	100	202
7. その他	△184	△261	△300
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,873	355	△1,725
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 長期借入れによる収入	413	—	913
2. 社債の償還による支出	—	△50	—
3. 自己株式の取得による支出	△234	△152	△297
4. 自己株式の売却による収入	12	16	17
財務活動によるキャッシュ・フロー	191	△186	633
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△118	△2
V 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	643	157	△500
VI 現金及び現金同等物の期首残高	8,616	8,116	8,616
VII 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	9,260	8,274	8,116

平成20年3月期 第3四半期業績概要 付帯資料

医療用医薬品等主要製品売上高

(単位:百万円)

	平成20年3月期	平成20年3月期	平成19年3月期
	年間(予想)	第3四半期	第3四半期
医療用医薬品	14,200	11,120	9,556
ペントシリン	3,450	2,770	2,662
トミロン	2,200	1,604	1,797
オゼックス	1,900	1,547	1,467
ルブラック	1,200	890	849
パシル	1,100	667	754
タゾシン	750	586	438
つくしAM散	600	434	473
その他	3,000	2,618	1,112
技術料収入	15,750	7,910	2,031
医療用医薬品以外	150	136	56
個別合計	30,100	19,167	11,643
連結子会社	2,000	1,060	1,403
連結合計	32,100	20,227	13,047

(参考)

(単位:百万円)

	平成20年3月期	平成20年3月期	平成19年3月期
	年間(予想)	第3四半期	第3四半期
医薬品事業	30,500	19,181	11,817
その他事業	1,600	1,046	1,230
合計	32,100	20,227	13,047

新製品開発状況

平成 20 年 1 月 30 日

国内開発

開発段階	開発番号 (商品名)	剤形	薬効	特徴	備考
申請中	T-614 (コルベット)	経口剤	抗リウマチ剤	疾患修飾型抗リウマチ剤(DMARD)。炎症性サイトカイン産生の抑制作用、免疫グロブリンの産生抑制作用を有しており、臨床試験で関節リウマチの優れた改善作用が認められた。 2003 年 9 月申請済み。	一般名：イグラチモド エーザイと共同開発 <海外> 南アフリカにおいて Phase II a 終了(自社) 韓国：東亜製薬へ導出
申請中	YP-18	注射剤	β -ラクタマーゼ阻害剤 配合抗生物質	ペントシリンと β -ラクタマーゼ阻害剤を 8:1 で配合。既に、米国をはじめ世界 90 数カ国承認され、高く評価されている薬剤。海外の標準用法・用量で、肺炎、尿路感染症、敗血症、小児感染症等の効能取得を目指している。 2007 年 5 月申請済み。	大鵬薬品と共同開発
Phase III	T-3262 10% 細粒 (オゼックス細粒 小児用 10%)	経口剤	ニューキノロン系合成抗菌剤	経口剤(錠剤)「オゼックス錠」の小児用細粒剤として開発。小児領域において肺炎、中耳炎の効能取得を目指している。 2006 年 10 月 PIII 開始。	
Phase III	T-3762 (パシル)	注射剤	ニューキノロン系合成抗菌剤	「パシル点滴静注液」は 2002 年発売以降、特有の重大な副作用は発現していないことから、より高い有効性を期待して、用量追加をするとともに、敗血症、肺炎球菌の追加効能取得を目指している。 2007 年 9 月 PIII 開始。	
Phase II	T-705	経口剤	抗ウイルス剤	抗インフルエンザウイルス剤。ウイルスの RNA ポリメラーゼに作用し、ウイルスの複製を阻害する。鳥インフルエンザ A (H5N1) 型に有用性が期待できる。 2008 年 1 月 PII 開始。	
Phase II 準備中	T-5224	経口剤	抗リウマチ剤	転写因子 AP-1 を阻害することで、炎症や関節破壊を抑えることができることから、関節リウマチの根本治療薬として期待できる。 2006 年 6 月 PI 開始。	科学技術振興機構からの 国内開発委託事業
Phase I	T-3811	注射剤	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	経口剤「ジェニナック錠」を注射剤として開発。既存のニューキノロン剤とは異なる構造を有し、特に呼吸器感染症の多剤耐性菌を含む起炎菌に強い抗菌力を示す。	一般名：メシル酸ガレノキサシン水和物
非臨床	T-1106	経口剤	抗ウイルス剤	C 型肝炎治療剤。HCV RNA ポリメラーゼに対し強い阻害活性を示した。	
非臨床	T-2307	注射剤	抗真菌剤	既存薬とは異なる新規な作用機序を持ち、広範な抗真菌スペクトルを有する。また、既存薬に対する耐性菌にも有効。	

海外開発

開発段階	開発番号	剤形	薬効	特徴	備考
再申請準備中	T-3811	経口剤	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	幅広い抗菌スペクトルを持ち、PRSP、MRSA などの耐性菌にも有効である。 優れた体内動態で1日1回の投与。合成抗菌剤だけでなくセフェム、ペニシリン、マクロライドなど幅広い対照薬との臨床試験の結果、同等以上の優れた有効性、安全性が証明されている。	一般名：Garenoxacin ＜導出先＞ シリング・プラウ社へ導出 韓国は東亜製薬へ導出
		注射剤			
Phase II 準備中	T-817MA	経口剤	アルツハイマー型認知症治療剤	強い神経細胞死抑制作用を持つ。また、神経突起進展促進作用も有しており、病態モデルで優れた有効性を示している。 米国：2005年7月PI開始。	自社開発
Phase I	T-705	経口剤	抗ウイルス剤	抗インフルエンザウイルス剤。ウイルスのRNAポリメラーゼに作用し、ウイルスの複製を阻害する。鳥インフルエンザA(H5N1)型に有用性が期待できる。 米国：2007年3月PI開始。	自社開発
非臨床	T-5224	経口剤	抗リウマチ剤	転写因子AP-1を阻害することで、炎症や関節破壊を抑えることができることから、関節リウマチの根本治療薬として期待できる。	＜導出先＞ ロシュ社へ導出 (開発番号：R7277)